

た ま ぶ ら ね と 通 信

第18号
2018年
10月13
日発行

「真の理解を求めて」

理事 笠井素子

国の障害者差別解消法と「国立市誰もがあたりまえに暮らしやすいまちにするための『しょうがいしゃがあたりまえに暮らしやすいまち宣言』の条例」が施行されて2年半がすぎたが、その後、その理念は実行されているのだろうか。

今年3月、東京都スポーツセンター改修に伴い、センターが使用できなくなった。代わりに調布にある施設を使うようにと。しかし、施設は遠く時間や労力がかかるうえ、ヘルパー同伴で行く必要がある者はヘルパーの長時間利用がむずかしい。市内にも体育館があるが、一般の利用料がかかってしまう。スポーツセンターは無料だった。そこで、たまぶらねとの利用者6名が身近な市の総合体育館の利用料減免を陳情した。市議会にて、何人かの議員は、「これまで何の減免もなかったのか」と驚き、担当課からは、「減免は検討するが、よくても高齢者並みの半額、しかも事務手続きには数か月かかる」と言われていた。しかし、当事者の陳情のおかげで、議論の結果、即時無料という緊急一時措置となった。

私は、これらを陰で支える身であったが、ようやくスタート地点に立ったような疲労感に襲われた。改修ということは、前からわかっていたはずなのに、それに代わる対応が、前もってなされなかったのだ・・・社会に「障害」を感じざるを得ない少数派は、あたりまえのことを一つひとつ勝ち取っていないといけないのか、という重さ・・・これまでいろんなことを勝ち取ってきたんだな、という歴史の重さ・・・それが生活自体いや命にかかわることだったりしたのだな・・・ということ。改めて思い知らされた。

その後、体育館では、障害者の利用が見られ、いくつかの珍場面や、障害者をめぐって市民同士のや

りとりが生まれているようだ。これまで障害者と無縁であった市民にとっては、戸惑いもあるかもしれない。しかし、「真の理解は空間を同じくして生まれる」と思うのだ。互いが互いを知り、思いやりやマナーを身に着ける。いろんな人がごちゃまぜに存在し、支え合う。それこそが、「あたりまえに暮らしやすいまち」ではないだろうか。そうなることで、だれもが生きやすいまちになるのだと思う。それを積極的に推し進める意思を表すものとして、障害者の利用料を恒久的に無料にすることを、今、市に求めている。市にはぜひ英断してほしいと願う。
(陳情署名にご協力いただいた方々、ありがとうございました)

ゴミ出し奮闘記

相談員 石原みき子

国立市がゴミの有料化をして以来、ゴミのルールが細かく難しくなり、多くの市民が新たな苦勞を抱えることになった。脳梗塞の後遺症で、めまいとふらつきがあり特に朝の状態が悪い林さん。ご自宅はエレベーターの無い団地の4階で、朝のゴミ出しは超困難。

ケアプランの担当者としてなんとかならないかと考えて、まず同じ団地の中でゴミ出しのサポートが得られないものかと団地の生活支援コーディネーターさんに相談したところ、団地内の助け合いのシステムを作ろうと考えているがまだ動き出していない、しかも有料となる見通しだとのこと。残念！しかし団地内資源、ごみ無料回収日があるという情報を得て、その当日にコーディネーターさんのお手伝いも頂き、溜まってしまった大量の古新聞などを一気に処分できた。お部屋が広くなった！

日々のごみ収集については、市役所のゴミ減量課に相談。ゴミ出しについて特別に配慮して欲しい旨の届出」なる市長あての書類を出さなくてはならなかったが、フタ付きの個人ゴミ箱設置という方法で、

収集日以外でもヘルパーが入った際にゴミ出しができることになった。タイミング良く、不要となった事業所用フタつきゴミ箱があるとの情報も得て、無償で譲り受けてお渡しすることもできた。

林さんにも喜んで頂きめでたしめでたしと思っていたら、翌月になって団地の居住者から「ゴミ箱自体がルール違反(有料シールが貼られていない)粗大ゴミと勘違いされるので何とかして欲しい」と苦情が出ていると聞き及ぶ。ゴミ箱設置当初から、団地内での理解と協力をコーディネーターさんや団地環境部の方にお願ひしてきたが周知のチラシ掲示が遅れているとのこと。そこでゴミ箱自体に説明文を入れることを提案し、了解を得て、団地住民への理解と協力を求める文章を、シールにして直接貼り付けに行った。その後の苦情は来っていないので、こんどこそ「めでたし」かな？

住んでいる地域の様々な人々を巻き込んで「お困りごと」を解消していくのは高齢化と人手不足の世の中、必然となつて行かざるを得ない。負担にならない程度の、少しずつの手助けは、回り回って自分が助けられる番が来た時のための環境づくりになるだろう。情けは人の為ならず！

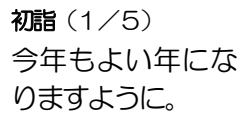
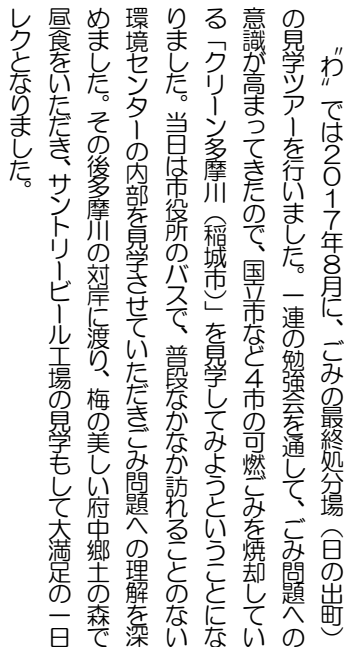
今年も、色とりどりのお菓子を届けていただきました「美多加堂」クリエイティブ倶楽部さまに、心より感謝申し上げます。

新しいお菓子が納品されると、店頭の掲示を見たり、噂を聞いたりしたお客さんが増え、お店が活気づきます。珍しい商品や限定品などはすぐに売り切れます。売上は「わ、」のメンバーの工賃に反映されます。



就労継続支援B型事業所
 テイセーターたまぶらねっとわ
 日々の出来事お知らせします！

今年もいろんな場所に出かけました！

ふくろうカフェ (7/3)
意外とふわふわ！

公園清掃はじまりました。桜吹雪の日も、猛暑の日も、台風の日も負けず、市内5ヶ所の公園を掃除しています。雨の日も風の日も頑張っています！

メンバーの声

・公園清掃すると姉が喜びます。(中保)

・運動の為に自然の空気を感じながら歩いているのこみ拾いで、少しは体力ついたかな・・・とありがたく楽しいです。(チコ)

・暑い時は大変だけど、お金になるので頑張ります。(くら)

・公園のベンチの下は、隠すように吸殻が落ちています。それを発見すると、愛煙家の私もタバコが嫌いになります。やめようかな。タバコ。(リュウ)

・季節の変化を肌で感じながらお仕事でできることがとても楽しいですね！(タカノ)



高尾山
(11/2)
到れそうに
で食べたソ
しかった！

☆しみ問題を考える！ 第1弾☆

わくわく塾を利用したの『わくわくこみ解決法』(1/31)

国立市では２０１７年９月より、家庭ごみが有料化されました。“わ”の利用者も職員も、ごみの捨て方についてわからないことや困っていることが増えてきたので、市の職員さんを招いて勉強会をしました。当日は国立市生活環境部ごみ減量課の職員さんが、ごみのモデルを用いながら丁寧に質問に答えてくださいました。

☆しみ問題を考える！ 第2弾☆

『ビール工場』(2018/3/7)

(以後 ペンネームで表示)

エノク ボヘミアン・リブンティイ(クイーン)
MUN 夢見が丘(B'Z)
不孝林さん 私はマリコ(永井真理子)
ぐーちゃん ひまわりの約束(秦基博)
くじ 北酒場(細川たかこ)
リレウ 第九(ハートベーン) *フラッシュモブでー
くせむと Sweat & Tears (アルフィー)
KID ひじょう ながさつぐん 夜は誰かに(静かな音楽)
ローレル 糸(中島みゆき)
MCNHN HANABI (ミズキユ)
一晴あき 石狩挽歌(北原ミレイ)
くろくと HERO (タリヤ・キャンー)
KEKO Open Arms (Journey)
みくすと 無言坂(香取なな)
くすと Dancing With mr. D (Rolling Stones)
くろくと フォーエ(中島みゆき)
みくちと 栄光の架け橋(中島)
A 散歩 (JUGGLER)
ボチ姫 ケイ・シトール (Beatles)
くろく 海産物 (パシアンカンフーシエ・シモン)
くせむと No.1 野郎 (クロコティン)
古畑と 決意の朝(1) (Aqua Times)
MMA Amour et fierte (パシアンTVCF ヤスーシ曲)
ナ/クと Peace of my wish (今井美樹)
1st Dear Prudence (Beatles)
シムリン 彩の(川口マユ)
チクと ボーイズ・ンガル (SPEED)
くろくと ニヤン(榎坂)
くせむと 死の魔法 (SEKAINO OWARI)

マウンテンが斬る！ (4)

あなたにとって立ち直るきっかけになった「うた」
勇気づけられた「うた」は何ですか？

まちのなかに
ピアノが
あらわれたよ



ドームのなかで
セッション！
ピアノを弾く
倉林さんとオカ
リナを吹く日塔
さん



“Play Me, I, m Yours” のことなど 日塔 龍也

今年の3月後半、私たち「わ」の利用者数名と職員1名、その他の協力者からなる混成チームが「ピアノクルー」あるいは「ピアノの守り人」とも呼ばれるボランティアとして、「Play Me, I, m Yours」で活動した。私は千載一遇とも言える機会に恵まれて、ワクワクしっぱなしであった。

Play Me, I, m Yours (以下PMIYと表記) は一口では説明しづらい出来事であったので、「くにたちアートビエンナーレ」が配布していたチラシから引用してその内容を振り返ってみたい。

『2008年より世界を巡回しているPMIYは、英国人アーティスト、ルーク・ジェラムのアートプロジェクトです。まちの中に突如出現するピアノには、「Play Me, I, m Yours (さあ、私を弾いて)」と書かれてあり、人々を誘います。今までに世界55以上の都市で1700台を超えるピアノが置かれ、1000万人以上の人々が楽しみました。2018年3月、国内初開催となるPMIYがくにたちの

まちにやってきました』 『市民から寄贈された10台のピアノが丁寧に調律され、国立近隣の建築家や作家、イラストレーターによって装飾されて、通りや公園、お店に期間限定で設置されます。子供から大人まで誰もが自由にピアノに触ったり、弾いてみたりできます』

これがPMIYの、そしてそれが目指していたもののあらましである。

PMIYが目指していたもの？それは、まち中で不意にピアノに遭遇した人々に何が起こるだろうかという実験的な試みも含まれている。こういう素敵な実験は私も大好きである。だがPMIYはもつと先を考えていた。通りすがりの人々、普段はもしかしたら挨拶すらしたことのない人々が、ピアノを前にして微笑みを交わし、流れてくる音楽に身を委ねる。そんな人と人とが繋がる時間と空間が生まれることをPMIYは予見していたようだ。私は嬉しくてたまらなかった。

私はというと、決して大げさではなく、担当した1台のピアノの周りに夢のような祝祭空間が生まれていたのを目撃している。そして、それがまち中に広がっていたことを様々な情報から確信している。私は3月後半の2週間を、PMIYの目指していたものが実現されていく様を確認しつつ、たいへん充実した思いで過ごした。今では、PMIYのピアノクルーであったことを、誇りをもって思い出す。最後に「くにたちアートビエンナーレ」が纏めたアンケートから引用し、ある参加者のPMIYの感想を皆様にお伝えして、この稿を結びたいと思う。

『最高に楽しい！ 青空の下で弾いて歌って、それを聴き感じることがこんなに気持ちいいとは！ 本心に心地よい時間を持つことができました。このプロジェクトは、大人／子供、プロ／アマ、ピアノを弾ける人／弾いたことがない人……そんな線引きの堅苦しさを楽々と超えて、音楽の素晴らしさを強く実感させてくれました。この楽園のような風景は、きつと一人ひとりの心に、なにかワクワクする幸せな記憶とともに、最高の宝物として残り続けると思います。そんな経験を子供たちができたことを感謝しています。ありがとうございました！』

第三回派遣！ 退院後の暮らしの応援団！

早いものでもう三回目となりました。8月31日、斎藤病院（府中市）に行ってきました！「わ」メンバーの日塔さんと柏木さんは、退院後の生活が不安な入院中の患者さんたちに、退院後にどんな支援を受けることができるか、どのように役に立つのか説明しました。患者さんたちからは「オレもこのままじゃいけないと思った」とても参考になった！と前向きな反応が多く聞かれたそうです。

「昼食会・音楽会」 倉林 明彦

今年に入り、『世界の料理・昼食会』と『持ち寄り・音楽鑑賞会』の2つを企画しました。

昼食会は2月に韓国料理、5月にベトナム料理を実施しました。各回10名近くの方に参加頂き、普段とは違う経験を共有しました。今後はシンガポール、タイ、台湾、スリランカ料理などを考えています。

音楽会は3回行いました。Jポップやクラシック、洋楽や自然の音など、各自好きな音楽を持参し、楽しいひとときをみんなで過ごしました。

これからも3ヶ月に1回位のペースで実施していきたいと考えています。

『季刊 福祉労働』に原稿が掲載されました！



★日塔龍也主筆
「私たちはひとり暮らしを始めた」
★9/25発売
★発行元…
現代書館

4名のメンバーのすまいをめぐる生き様が収録されています。ぜひご覧ください。

新しい職員です！ どうぞよろしく！

4月からたまぷらねっと「わ」のスタッフの仲間に入りました河内洋子です。早いものでもう5ヶ月。あつという間でしたが毎日がとても充実しています。

福祉の仕事は初めてですが、私がこの仕事につきたいと思ったきっかけは、祖母についてくれたヘルパーさんとの出会いでした。そのヘルパーさんは祖母はもちろん母や私、家族にも寄り添ってくれるとても温かい人でした。私が涙をこぼした時に優しく抱きしめてくれました。その温りに「ヘルパーさんのように温かい人になりたい。私も誰かの心を助けたい。」と強く思いました。その後素敵で不思議な出会いがあり、背中を押してくれる人達に出会えたたまぷらねっと「わ」に勤務することになりました。

当初はスタッフ11人しかいなければならぬ。どんな質問にも答えなければならぬ・・・と思い肩力が入りすぎていた気がします。例えば食事作り。約20人分の食事を作る事に、迷い考える事がたくさんありましたがし不安もありました。でもそんな時はメンバーさんの力を借りようと思ったのです。みなさんそれぞれ得意な所を持っている。その力を借りようと。買い物に得意・計算が得意・調理が得意・味付けが得意・盛付けが得意・その他にもたくさん。メンバーさんと協力したら大変な事から楽しい事へと変わりました。他の作業も同様です。一緒にやる事の大切さや楽しさに気がつきました。メンバーさんの力があるからこそ私の「わ」での日々は充実しているのです。

今はメンバーさんの笑顔を見る事が私の日課となり、安心となっています。このような出会いに感謝すると同時に、わたしもメンバーさんを笑顔にできる心に寄り添えるスタッフになれるようにみんなさんと一緒に過ごしてゆきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

(河内 洋子)

縁のある、ない言葉

祥 天音

昔

誰かに言われた言葉の鎖に

縛られている人

私も

誰かに言われた言葉に傷ついて

縛られて ずっと苦しんできました

昔 付き合っていた

彼氏 彼女 友達とかなら なおさら残るよね

そんな傷つける言葉は

縁もゆかりも無い言葉

傷ついた言葉を

紙に書いて捨てちゃうと

元気になるよ

本当だよ

それいけ！とーや



続きはあるのだろうか……

【編集後記】職員は、法人を運営するに当たり、報酬改定など制度の変更対応に追われたこの一年でした。「わ」やヘルパーを利用していただいている方は、たまぷらねっとの、のんびりした柔軟な対応に共感していただいていることと思いますが、制度はいろいろな「しぼり」をかけてきます。それぞれの自分の思いを実現しながら、自分を取り戻し、回復していくことにもっと価値をみてほしい。そのためには、このたまぷらの成果もなんらかの形でみせていく必要もあります。たまぷらねっと通信が、その意味で大事な役割を果たすのだからということをしみじみと感じた今号でした。

たまぷらねっと通信

非営利型一般社団法人たまぷらねっと

★【中本部】法人事務局

在宅ケアセンターたまぷらねっと (ケアマネ)
ヘルパーステーションたまぷらねっと
ケアプランセンターたまぷらねっと

(障害・特定相談)

〒186-0004 国立市中1-14-30-1
TEL 042-505-5441
FAX 042-505-5442

**

★【西事業所】

デイセンターたまぷらねっと「わ」

(就労継続支援B型)

〒186-0005
国立市西2-11-23 関ビル第二
国立市西2-11-30 関ビル第一

TEL 042-505-9434
FAX 042-505-9438

✉ tamapula@ksf.biglobe.ne.jp